



2017年(平成29年)  
11月14日 火曜日

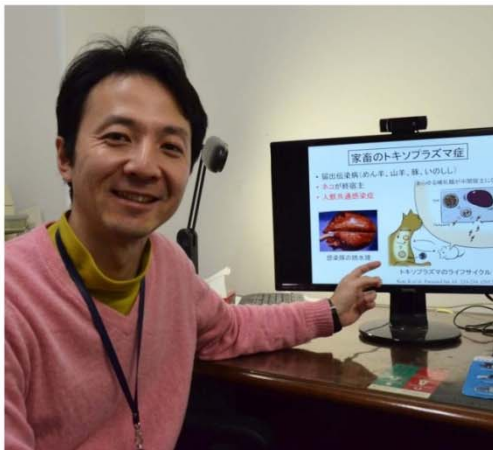
あすの帯広  
9℃  
最高 9℃  
最低 1℃

発行所: 十勝毎日新聞社  
〒080-8688 帯広市東1条南8丁目  
編集 ☎0155-22-2121 広告 ☎0155-23-2323  
販売 ☎0155-24-2222 事業 ☎0155-22-7555  
購読 ☎0120-25-3999

# 加藤准教授に獣医学会賞

## 帯畜大 「トキソプラズマ」解析

帯畜大帯畜産大原虫病研究センターの加藤健太郎准教授(43)は、2017〜18年度の日本獣医学会賞を受賞した。感染症「トキソプラズマ」の発現メカニズム解析を通して、感染を抑える薬を開発などの研究成果が評価された。



日本獣医学会賞を受賞した加藤准教授

**トキソプラズマ症** 猫のふん便や感染動物の食肉に含まれるトキソプラズマ原虫の経口摂取で起きる人獣共通感染症。健常者が感染しても重篤化しないが、妊娠中に初感染すると脳症など胎児への先天性感染症を引き起こす。エイズなど免疫が低下している人は死亡する場合もある。世界で約3割が感染していると推定されている。

研究者に贈られる賞。今回は2人が選ばれ、9月に鹿児島県で開かれた日本獣医学学会学術集会で表彰された。

加藤氏はトキソプラズマを引き起こす原虫がヒトの細胞に侵入する際、ヒト細胞側のレセプター(受容体)細胞外の物質や光を受容する物質の総称)の種類を明らかにした。受容体は糖鎖(糖が結合した化合物)の一種で、この糖鎖の中に抗原作用があることを、ブタの感染実験で確認した。

また、原虫内の酵素「原虫プロテインキナーゼ(PK)」が、宿主細胞への侵入や増殖など複雑な原虫ライフサイクルで重要な役割を果たしていることを解析。PKをターゲットにした薬が原虫の運動を制御し、感染しにくくなることを突き止めた。さらに、原虫の急激な増殖と、回避行動としてヒト体内で休眠する「潜伏感染」誘導の両者を抑制する薬開発にも成功した。

加藤氏は「獣医師として獣医学会賞は1つの目標で、受賞はうれしい。今後、学会に貢献できるように研究に取り組みたい」と話した。(池谷智仁)

**日本獣医学会賞を受賞** 帯畜産大原虫病研究センターの加藤健太郎准教授(43)が、2017〜18年度の日本獣医学会賞を受賞した。